カバディについてのご紹介①

■ 概要

もともとは狩りが起源のインド発祥のスポーツ。遊びの要素などが加わり、スポーツとして成熟した。
南アジアでは数千年の歴史を持ち、インドやバングラデシュでは国技とされている。
1978年にはアジア連盟が発足し、以後アジア競技大会の正式種目となっている。
近年、ワールドカップが開催されるなど国際的な広がりをみせ、オリンピック種目を目指すニュースポーツの一つである。

日本では1981年に日本協会が発足、1989年には第1回全日本カバディ選手権大会が開催された。
1990年、アジア競技大会(北京)に日本代表選手団を派遣、2007年の第2回カバディワールドカップにて、
男子チームが銅メダルを獲得。
その後、2010年広州アジア大会で男子が銅メダル、同年第1回女子カバディワールドカップにて女子チームが銅メダルを
獲得するなど、国際大会において優秀な成績を収めている。

■ 主な国際大会

- アジア競技大会
- アジアインドアゲームズ
- アジアビーチゲームズ
- アジアカバディ選手権大会
- カバディワールドカップ 他

■ 主な国内大会

- 全日本大会
- 東日本大会、西日本大会
- 子ども大会
- 学生大会
- チャレンジカップ
- その他 年間５大会程度を開催

Copyright(c) 日本カバディ協会 All Rights Reserved.

カバディの歴史と今後の展望

カバディの歴史

■競技としての近代化と発展

南アジアの各地域で行われていたこの競技は、20世紀になるとインドを中心に統一したルールの整理が行われ、全面的な組織作りが行われました。1978年にはアジア連盟が設立され、アジア競技大会では、1990年以降現在でも正種目となっています。また2004年には国際連盟が発足。第1回カバディワールドカップが開催され、今やアジアのスポーツから世界のスポーツとして注目されるようになりました。

- 南アジアで数千年の歴史（インド、バングラデシュでは国技）。
- 1951年インドを中心にルールが統一されスポーツとして発展。
- 1978年アジア連盟発足。以後アジア競技大会の正式種目となる。
  ※男子…1990年北京大会～。女子…2010年広州大会～。
- 2004年国際連盟発足。第1回ワールドカップ開催。
- 2014年プロカバディリーグ（PKL）発足。世界１００カ国、視聴者２億人以上。

今後の展望

■プロカバディリーグの発足

インドでは、国技でもあるカバディのプロリーグ（PKL）が、2014年スタート。8チームが参戦しており、2017年現在4シーズン終了。開幕した2014年シーズン、サッカーワールドカップ・ブラジル大会のテレビ視聴率0.7%に対して、PKLの平均視聴率は0.75%を記録。インド国内で、Star Sportsが放映していたが、その後、FOX Sportsがプロカバディリーグのコンテンツを買い取り、世界的な認知を拡大しています。

■カバディワールドカップ

2016年に第3回カバディワールドカップが開催。世界5大陸から12か国が参加。日本代表チームも参戦。アジアのみならず、アフリカ、北米、南米、オセアニアなど世界的な盛り上がりを見せています。

Copyright(c) 日本カバディ協会 All Rights Reserved.

【セパタクローとは？】

セパタクローの「セパ」はマレー語で「蹴る」、「タクロー」はタイ語で「(籐で編んだ)ボール」という意味で、セパタクローは 2 つの言葉の合成語であり、言葉が示すように、ネットをはさんで足や腿または頭を使ってボールを相手コートに返しあう競技で、バレーボールに似たスポーツである。

使用するボールは 12 の穴と 20 の交点を持つよう編み重ねた球形のもので、プラスチックで現在は作られています。(その昔は籐という植物で編んで作られていた。)

【歴史】

セパタクローのルーツは、9 世紀の昔から東南アジアの各国各地で伝えられてきた伝統スポーツである。

1965 年　東南アジア競技大会（現在の SEA Games）の競技種目に採用された際、
　　アジアセパタクロー連盟（ASTAF）が設立され、統一ルールが作られた。
1988 年　国際セパタクロー連盟（ISTAF）が設立されて、その活動はアジアだけでなく
　　南・北アメリカ、オセアニア、ヨーロッパ大陸と、世界的な広がりを見せている。
1990 年　北京で開催された第 11 回アジア競技大会の正式種目となる。
1997 年　女子種目が新たに世界選手権大会に加わった。
1998 年　アジア競技大会の正式種目に女子種目が加わった。

一般社団法人日本セパタクロー協会は、1989 年の設立以来 36 年を迎えましたが、この四半世紀あまりの間、日本におけるセパタクロー競技は、着実な発展を遂げ、アジアのオリンピックと称されるアジア競技大会においては、2002 年の釜山大会での初のメダル獲得以来、ドーハ（2006）、広州（2010）、仁川（2014）、パレンバン（2018）、杭州（2023）と 6 大会連続でメダルを獲得し、2018 年のパレンバン大会では悲願の銀メダルを獲得いたしました。

【アジア競技大会とは？】

アジア競技大会とは、4 年に 1 度開催されるアジアのオリンピックと称される国際総合競技大会のことであり、セパタクロー競技においては最も権威のある大会である。

直近の 2023 年中国・杭州大会では、40 競技 481 種目が実施され、45 の国と地域から 12,527 人の選手が参加をし、開催されました。夏季オリンピックに継ぐ大きさの国際総合競技大会で、2026 年 9/19（土）～10/4（日）には第 20 回愛知・名古屋アジア競技大会の開催が決定している。